

フォーラム登壇者の取材に行ってきました。

J STでは、高校生などの若者と「FIRSTプログラム」に選ばれた世界トップクラスの科学者が語り合う「FIRSTサイエンスフォーラム」の企画・運営を2010年から担当しています。「FIRSTプログラム」は、総合科学技術会議が推進する最先端研究開発支援プログラムです。2011年度も「FIRSTサイエンスフォーラム2～若者よトップ科学者と語れ!科学の未来と日本～」と題し、全国3カ所でフォーラムを開催します。私はその準備のため、研究者たちへの取材に行ってきました。

「FIRSTサイエンスフォーラム」は、研究内容の紹介だけでなく、研究者の人物もクローズアップするように構成しています。トップ研究者のキャラクターに親んでもらうことで、フォーラムに参加した若者に最先端研究への興味をもってもらう、と考えているのです。研究者という存在を身近に感じて、科学技術分野に進む若者が増えることも期待しています。そのためフォーラムでは、研究内容の紹介に加え、研究者自身の生い立ちや科学を志したきっかけ、研究にかける姿勢や信念などを語っていただきます。

といっても当日、いきなり司会者が「先生は子どもの頃、どんなお子さんでしたか?」と質問しても、研究者それぞれの魅力を十分に引き出せるとは限りません。そこで、私たちが事前に研究者へ取材を行うのです。この取



イノベーション企画調整部

アウトリーチ担当

主査

小長井敬介(29) こながいけいすけ

●業務の内容

FIRSTサイエンスフォーラムの企画運営に加え、FIRSTプログラムの一般向けのアウトリーチ全般も行う。また、これらの活動で得たノウハウを生かし、JSTの各種事業で支援する研究についてのアウトリーチ活動にも広げられるよう準備中。

●Background

筑波大学大学院生命環境科学研究科で超高压物性を研究。修了後、JST入社。現在5年目。地域における産学官連携を担当後、2010年に現業務へ。日本学術会議に Outreach、エネルギー政策提言に関する業務の経験も。

材で、研究内容はもちろん、趣味や人柄など、研究者のキャラクターを把握し、それらをフォーラム全体の進行シナリオに生かしています。

今年度最初の取材先は、京都大学大学院工学研究科の木本恒暢教授でした。“究極の省エネ半導体”といわれるシリコンカーバイド半導体のトップ研究者で、第1回目のフォーラム(12月18日、京都会場)に登壇していただいた研究者の1人です。

まず、フォーラムの概要について説明した後、いよいよインタビューの開始です。子どもの頃の思い出から語っていただきました。阪神ファンで、昔は野球少年だったとのこと。科学に魅力を感じたのは高校生の頃。シンプルな法則でいろいろな現象を説明できることに感銘を受けたのが、きっかけだそうです。そのほかにも学生時代や、一度企業に就職してから大学で研究を始めた経緯など、約2時間で、さまざまなお話を伺いました。

木本教授が登壇された第1回フォーラムに続いて、第2回を2月5日(日)仙台で、第3回を3月18日(日)に東京で開催します。入場は無料。トップの科学者と直接語り合え、高校生や高専生のほか、どなたでも参加可能です。第2回はインターネットでのライブ中継もあります。



(左)フォーラム運営に関する打合せの様子。(中)研究者インタビューのビデオをチェック。映像はフォーラムで上映する。(右)フォーラム会場。メインプログラム終了後、研究者を囲んで話せるアフタートークも好評だ。

TEXT:Office彩蔵